

テモテへの手紙第一4章12節 「信者の模範」

1A 模範の対象

1B 信者としての模範

2B 信者の間の模範

2A 模範の必要

1B 倣いたい願い

2B 神のかたちキリスト

3B 使徒たちの模範

3A 模範の内容

1B ことば

2B 振る舞い

3B 愛

4B 信仰

5B 純潔

本文

テモテへの手紙第一 4 章を開いてください。今朝は、12 節に注目します。「あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。」テモテは、おそらくは 30 代の牧会者でしたが、彼のところには、違った教えをする者たちが、論争をしかけてきます。そこで、テモテはしっかり対処しようとしたら、「あなた、若いね～」とか言われたかもしれません！ここが古代ローマのエペソの町であることを思い出してください。

私たちとアジア人と、共通するものがあつたことでしょう。つまり、年功序列。若いと見くだされる傾向にあるということです。私はすぐに、この限界に気づきました。年を取らないとどうしようもないところがある、ということです。40 歳代に入ってから、年下の人たちにも年上の人たちにも、接することが楽になりました。そして、20 代の若い世代の、福音の働き人にも悩んでいる人々がいます。今は、そういった人々に、パウロのように励ましているほうに回っています。

1A 模範の対象

ここで大事なのは、そういった年功の差で振り回されないようにしなさい、ということです。主から召されていること、キリスト者が召されていることに集中しなさいということです。年が若かろうが、年を取っていようが、キリスト者であれば、信者の模範になることに集中すべきだということです。

1B 信者としての模範

ここで、「**信者の模範**」という言葉をごどのように訳せるか？で意見が分かれるそうです。キリストを信じている者がどのような者なのかを、世に対して、信者ではない人たちに対して模範を示しなさいという意味合いもあるそうです。そうすると、私たちキリスト者が、世において私たちが本当にキリストにある者であるかどうかを、試されているということです。

日本に住んでいる、韓国人の牧師さんがとても興味深い話をしてくれました。彼は日本のことを愛していますから、ちょっと日本びいきになっていますが、日本の鉄道の会社で働いている人と、韓国の航空会社の客室乗務員の違いを話していました。日暮里の駅で東口から降りると、京成線の駅員の方々が、エレベーターを使わず階段で上り下りをしています。京成電鉄の制服を着ている時は、京成を背負っているからです。その反面、韓国の航空会社の客室乗務員は、ソウルから仁川国際空港に行くバスで、その制服をもう来ているのだけれども、一個人の振る舞いなのだそうです。空港に入って、しばらくしてから振る舞いを変えよとのこと。「キリスト者は、キリストという制服を着ている。どこにいても、そのようにふるまっているか？」ということです。

私の知り合いが、自分の教会に来ている人を、たまたま街角にいたのを見ました。なんと、駐車場で、駐車している車に対して蹴りを入れていたのです。それで近寄って来て、何をやっているのか？と尋ねたら、突然、顔色が変わったそうです。たまたま、同じ教会の人がいて注意できたからいいですが、もし、未信者の方がその人がクリスチャンだと分かってしまったら、どう思うでしょうか？キリスト教って、所詮、こんなものね、というあざけりが出てきてしまいます。信者としての模範を示していかないといけません。

2B 信者の間の模範

次に、「**信者の模範**」というのは、「信者の間での模範」という意味です。テモテが、教会の指導者なので、他の信者に対して模範になりなさいという意味です。ただ、私自身、牧者となって思うことですが、「信者が互いに他の兄弟姉妹に対して、模範となっていけないといけな思いつながら、生きていたら」と思うことが、多くあります。

キリストのからだは、一つです。私たちはそれぞれ器官で、キリストにあって結びついています。その時に、自分を喜ばせることを考えていたらどうでしょうか？ぎりぎり罪ではないようにしておいて、あとは自分のやりたいことをやればよいのだ、と思ったらどうでしょうか？自分のことだけでなく、他者のことを省みているでしょうか？もし、自分のしている行動が、他の人たちも真似したら、どうということになるかを考えてみてください。自分自身がそうされたら、重荷になったり、つまずきを与えてしまうのではないのでしょうか？「I コリ 9:12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。」

私たちは、キリストを互いに示していくことによって、キリストを共有し、その中で、何にも代えがたい神の平安が与えられます。

2A 模範の必要

1B 倣いたい願い

ところで、私たち信仰者は、目に見えない神を信じています。けれども、その目に見えない神は、目に見えている生活の中に、ご自身を現したいと願われています。私たちも、そう願っています。「エペ 5:1 ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。」とあります。けれども、神に従うためにどうすればよいか、目に見えるかたちになっていなければ、分からないことだけです。私たちは、目に見える存在、つまり模範を欲しています。神に似た者になるというのが、今日という一日で、何をすることなのか？を具体的に知りたいと願っています。

若者はいつも、自分が付いてこれるモデルを探していると言われるですね。歌手かもしれないし、スポーツ選手かもしれません。自分の尊敬できる人で、良い人が見つかることは、とてもよいことです。私自身も、若い時に会った人々をじっと見て、その人たちに感化されて、生きて来ました。けれども、若者に限らず、私たち一人一人がそう思いますね？模範を欲している存在です。神に倣いたいと願うのは、キリスト者であればだれもが欲していることだと思います。

2B 神のかたちキリスト

そこで、私たちの主イエス・キリストは、神に倣うための模範になってくださいました。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり」とあります(ヘブ 1:3)。人として来られたイエス様に、神が何たるものかを、目に見える形で完全に現わしてくださいました。

3B 使徒たちの模範

そして使徒たちが、このキリストに倣っていくのを見て、人々がキリストに倣っていくことを学んでいました。「I コリ 11:1 私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。」例えば、パウロは、コリントの人たちに自分の働きに対する報酬を求めず、夜昼働いて、生活費を自分でまかさないました。それは、他の偽りの働き人たちが、お金を信者たちから巻き上げていたからです。イエスが、もらうよりも与えることが幸いであるとし、ご自身がその生涯を全うされたからであって、パウロは、本来、権利を持っていた報酬を得る権利を、自ら放棄していたのです。

このように、人は模範を見て、主に従うことを学びます。そうでない時も、時々あります。それは神が直接、聖霊が強く臨んで教えられる時です。例えば、テサロニケの人たちは、パウロたちがそこに長く滞在していなかったのにもかかわらず、互いに愛し合い、それがギリシア全域の信者たちの模範になりました。「あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たち」と言っています(I テサ 4:9)。聖霊が力強く臨まれる時に、主から直接教えられて、愛の行為を積極的に行う

ということもあります。これは、主の御名をほめたたえる、すばらしいことです。

しかし、多くの場合、主に倣う人々がいて、その模範を見て、そして自分もどのようにして主に従うのかを知ります。私は、例えば、子どもを愛することについて、友人のアメリカ人のクリスチャンが、小さな子たちをしつけている姿を見て、感銘を受けました。何か物を投げたのです。人に当たったら、とても大変でした。父親は、殴ることはしませんでした。しかし、同じ目線にかがみ、目をじっと見つめて、まるで大人に語るように、強く、これがいかに罪深いことかを、主を畏れなければいけないことも教えていました。子どもだから仕方がないというのは、その子を人格がないかのようにみなす、愛のない行為だと分かったのです。だれかが、主にあって教えることを見せていなければ、他の人たちがどのように教えればよいか、分かりません。

3A 模範の内容

それで、テモテに信者の模範になることを勧めています、その内容を見てみましょう。

1B ことば

まず、「**ことば**」です。私たちのことばについて、コロサイ書でパウロが、こう言っています。「4:6 あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい。そうすれば、一人ひとりにどのように答えたらよいか分かります。」ここの「親切」というところは、「恵みによるもので」と訳すこともできます。私たちのことばが、恵みによっているでしょうか？そして、恵みがありながら、汚れや腐敗を防ぐような、塩味の効いたものになっているかどうか？そのことを心がければいいです。一人一人に対する答え方とありますが、一人一人は違った人々です。けれども、恵みによって、塩味が効いていることを心がけているならば、その時にその応じ方が分かってきます。

キリスト者は、このバランスを取ることに気を使っていく必要があります。私が観察するに、どちらかに偏る過ちを見ます。一つは、何でもかんでも大丈夫だよ、と言ってしまうことです。その人が罪を犯しているのに、それでも大丈夫だよと言ってしまうことです。そして、罪や過ちであることを指摘している人に対して、裁いていると逆に裁いていることがあります。もう一つの過ちは、「塩味だけ」になっていることです。恵みを忘れていることです。その人の弱さに同情して、しかし、その罪から立ち直るようにするのですが、同情もなく、ただ正論を語っている場合です。恵みがあって、そして塩味が効いていることばです。

2B 振る舞い

次に、「**態度**」です。ここの訳は、もっと行いが含まれる言葉になっています。共同訳の「振る舞い」がよいでしょう。ことばで正しいことを言っても、その振る舞いが異なっていたら、その人は信用されません。パウロは、テサロニケの人たちに、福音を伝えただけでなく、その振る舞いについて思

い起こさせました。「I テサ 2:7-8 キリストの使徒として権威を主張することもできましたが、あなたがたの間では幼子になりました。私たちは、自分の子どもたちを養い育てる母親のように、あなたがたをいとおしく思い、神の福音だけではなく、自分自身のいのちまで、喜んであなたがたに与えたいと思っています。あなたがたが私たちの愛する者となったからです。」母親のように優しく振る舞いました。そして、「2:11-12 また、あなたがたが知っているとおりに、私たちは自分の子どもに向かう父親のように、あなたがた一人ひとりに、ご自分の御国と栄光にあずかるようにと召してください。神にふさわしく歩むよう、勧め、励まし、厳かに命じました。」父親のように、威厳をもって語りました。

3B 愛

そして「愛」です。愛については、コリント第一 13 章があります。そこに定義があります。「13:4-7 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。」このように、ことばから始まり、ことばだけでなく振る舞いが必要であり、そしてその振る舞いには、愛がなければいけません。

4B 信仰

そして次に、「信仰」です。ここで言っているのは、主を信頼して歩んでいる姿であるし、また「誠実」とも訳することができる言葉で、人を裏切らない信実な人だというような意味で使うことのできる言葉でもあります。どちらも大事ですね。

神に対する信仰については、ある方が、とても興味深いことを書いていました。イエスが評価した人は、どのような人なのだろうか？ということですが、牧師の間では、とにかく、礼拝者数などで評価する傾向があるとのこと。けれども、イエス様は、福音書を注意深く読んでみると、信仰が薄いことは嘆き、信仰を働かせた人のことを、称賛しておられるということです。百人隊長については、「これほどの信仰を見たことがない」と言われ、カナン人の女については「女の方、あなたの信仰は立派です」と称賛しました。ガラテヤ人への手紙には、「愛によって働く信仰」(5:6)とあり、信仰によって生きている人々が高く評価されます。¹

目に見えているところに従えば、とうてい希望が持ていない状況なのに、それでも信じている姿は、人々に大きな励ましを与えます。フェイスブックで私たちが、バイブルカフェをしていることを報告しているので、それを見ている人々が、しばしば連絡をくださいます。その多くが、「人が来ても、来なくても、休むことなく福音を伝えている姿」について、ほめてくださいます。信仰は、そうですね、状況が良ければ行って、そうでなければ行わないという、都合で左右するものではありません。主

¹ 地引網出版メールマガジン 第 122 号

が言われているからという理由だけで、動くのです。

5B 純潔

そして最後に、「**純潔**」です。これは、テモテが若いということをパウロが意識して、話しています。「5:2 若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。」とあります。テモテ第二には、「2:22 あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」と勧めています。純潔において、信者の模範となるのです。未信者の相手と付き合ったり、信者の間でも、同じ家で宿泊したりと、自ら誘惑を作っていくことがあります。そして、「それはこの子を伝道するためなのだ」と言いますが、それは無理で、自分の欲に魅かれていきます。主を追い求めて、純潔を守ることで模範を示します。

最後に、このように信者の模範になることで、実は自分自身を救っていることとなります。この悪い時代、惑わしの多い時に、自分が積極的に模範になることによって、人々が守られていき、そして自分自身も守られていきます。攻撃は最大の防御だと言いますね。主にあって、人々の模範になっていきましょう。そうすれば、信仰から離れることから守られます。